



# THE OGURA TIMES

港区と区議会をもっと身近に

2018.10 港区政レポート Vol.14

平成30年第3回定例会において登壇し、区長・教育長に質問いたしました。

## 第3回定例会 自民党代表質問・決算質問

(一部抜粋)

★ 人口が増えることによる教育・福祉施設の整備が追い付かないとして、人口流入を制限する区が出てきた。港区は長期の計画性を持った施設整備をしっかりとしていただきたい。

**区長** ⇨ 施設の長寿命化、徹底的な現施設の有効活用、多様な整備手法を持って施設整備を計画的に推進する。

**教育長** ⇨ 学校の増改築や仮設校舎設置の可能性は早期に調査し、民有地も含めて学校の隣接地の活用状況の情報収集等、学校における施設需要への対応を迅速かつ柔軟に進める。



40年後の港区は現時点より人口が4万～5万人多いという予測があります。特に学校施設は校舎の建て替えや増改築を必要とするところもあり、適切な用地が絶対的に不足しています。今後も人口増に伴う課題解決を求めます。



平成30年9月、港区議会本会議場にて

自民党議員団を代表し、区役所や教育委員会に関して多く問いました。

★ 「地域の課題は地域で解決する」をモットーとした総合支所制度。地域で特色ある学校教育を推進しているが、支所と教育委員会が十分に連携できていない。教育委員会の機能を支所に設けてはどうか。

**区長** ⇨ 総合支所における教育委員会の機能については検討する。

**教育長** ⇨ 学校運営協議会制度に、総合支所が参画することを検討している。機能については区長部局と共に検討する。



★ 現在、総合支所長は本庁業務の部長兼務となっている。管轄地域に専念して課題を解決してもらうためにも、支所長は専任とするべきでは。

**区長** ⇨ 兼務に伴う課題を整理する。

### 児童虐待情報共有の強化を

平成33年度に港区に児童相談所機能を兼ねた（仮称）港区子ども家庭総合支援センターが青山に開設予定です。

通報の多くは警察であり、他区・他自治体の児童相談所とも情報共有の方法を早急に確立しなくてはなりません。

港区では途切れることない援助をするため、**対面での引き継ぎ、同行しての訪問を実施**する方向である旨の回答を得ました。期待したいと思います。

## 平成29年度 決算特別委員会報告 (一部抜粋)



今後も区民には見えにくい役所体制の改善を求めています。

**区立小・中学生のオーストラリア派遣事業**は今年で12年目です。これまで多数の議員が質疑を行ってきましたが、肝心の港区の教育政策がどのように改善・反映されてきているかは質疑されてきませんでした。体制の課題が2点あります。

① オーストラリアへ同行した教育員会事務局はほぼ全員が教員。東京都教育委員会が異動の権限を持っており、得た知識と経験を港区教育に還元する前に異動してしまうかもしれないことを港区は重要視していないのではないかと考えます。

② 日本とは異なる指導法、ICT教育や発達障害向けの教育、教育制度や教員任用方法、教員が授業に専念できる事務職員の数など、参考にすべき点があるのに12年間も改善が無い。教育政策を担当する管轄になぜ教育の専門家を配置しないのか。

教員が所属する課とそれ以外の教育委員会事務局では、教育に対する想いに大きな差があると考えられます。適正な人事配置、そして現場教育者の見識を受け止めてもらえるよう、海外派遣の質疑を通じ指摘をしました。

### がけ・擁壁改修工事助成の引き上げを求めました。

坂の多い港区は高低差のある崖や斜面地が多数あり、大雨や地震などによる崖崩れ等の対策として、2メートルを超えるの崖や擁壁の所有者を対象とした改修工事費用の一部助成（費用1/2以内、上限500万円）を行っています。平成27年度から開始された制度ですが、現在までの実績は**7件**ということが判明しました。

民間地における土砂災害対策を区が先導して行うことは難しく、また区は改修してもらいたい場所を明確にしているわけでもありません。自発的な改修を促すために助成制度の活用を推奨していますが、工事は高額となり所有者の負担は大きくなります。助成割合や助成額の引き上げを含め、港区全体の土砂災害対策を考えてもらえるようお願いしました。



工事助成のお問い合わせ：  
住宅支援係 03-3578-2223



ねずみのお問い合わせ：  
みなと保健所 生活衛生相談係  
03-6400-0043

### ねずみ対策について改善を求める声を以前よりいただいています。

平成28年度から29年度にかけてねずみに関する苦情相談が248件あったと報告されました。自宅や飲食店での被害が155件、街中で見かける60件、死骸処理18件と、相談数がこの2年間で増えています。

害虫・害獣対策は保健所の管轄となり、ごみの管理に関する対策チラシを配布して環境的防除の周知に取り組んでいますが、保健所だけでは難しくなっています。保健所としてもねずみ対策を更に強化し、関係各所と連携を図るとのことです。

ねずみ防除は地域ぐるみの対策が必要と言いますが、区で方針を決めてもらう必要があるかもしれません。今後もねずみやごみに関してできることを考えていきます。

小倉りえこ 決算質疑【総務費】大使館等実務者連携会議【環境清掃費】清掃事業【民生費】社会貢献型後見人制度、地域包括ケアシステム【衛生費】ねずみ防除対策、アピアランス支援、がん対策【産業経済費】商品券、港区観光&マナーブック【土木費】がけ・擁壁改修工事費用助成、土砂災害対策、建設業者への指導【教育費】区立小・中学生海外派遣、区役所見学、英語科国際ネイティブコース  
小倉りえこ公式HPですべて公開しています。

## 小倉りえこ プロフィール

- 港区麻布十番出身 港区立東町小学校卒
- 米国サウスカロライナ大学理学部生物学科卒
- バイオベンチャー・製薬企業において、リウマチ、がん、線維筋痛症などの医薬品研究開発に従事

建設常任委員会 東京オリンピック・パラリンピック対策特別委員会  
エレベーター等対策特別委員会 副委員長

〒106-0047 港区南麻布1-4-21-601

Tel/Fax 03-3455-6208

<http://ogura-rieko.com>

